

トカラ列島近海の地震活動（小宝島付近）

震央分布図

(1994年10月1日～2025年7月7日、
深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)

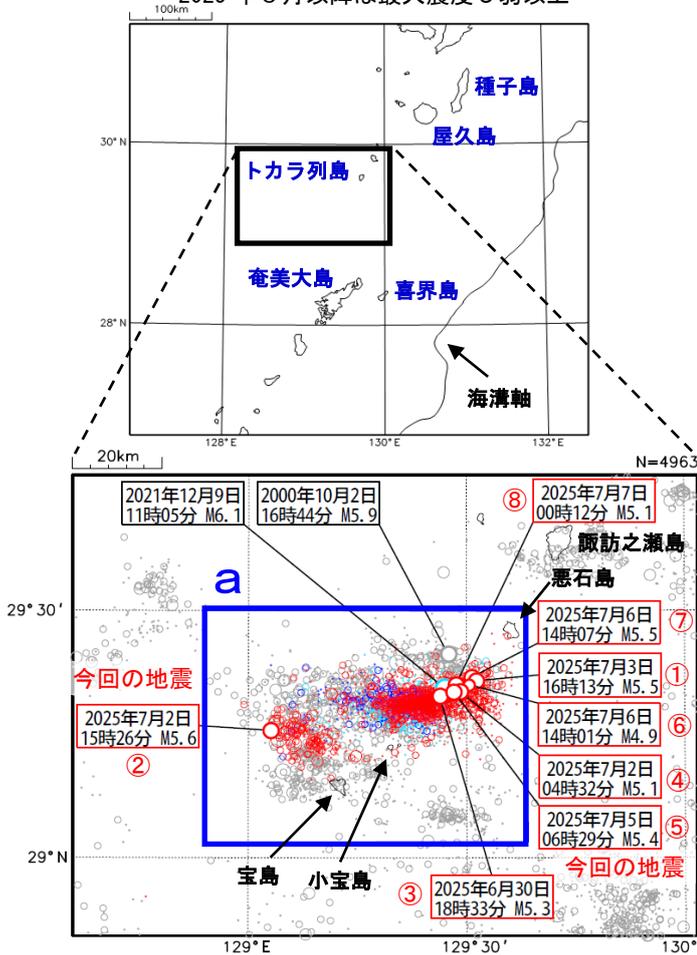
2021年12月の地震を水色○で表示

2023年9月の地震を青色○で表示

2025年6月以降の地震を赤色○で表示

吹き出しは、2025年5月までは最大震度5強以上、

2025年6月以降は最大震度5弱以上



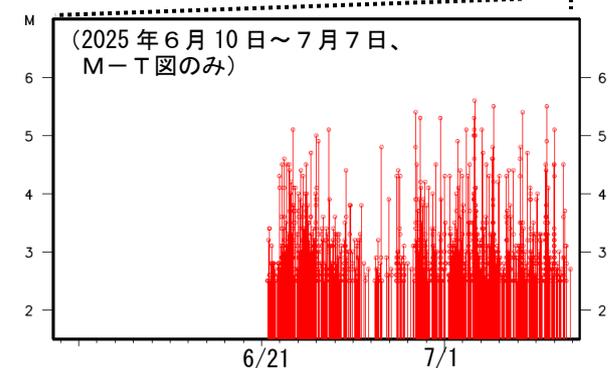
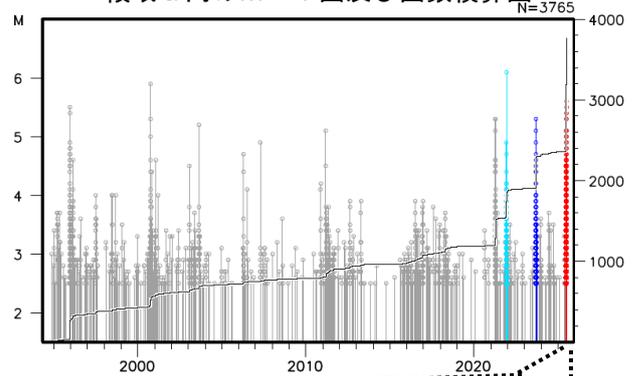
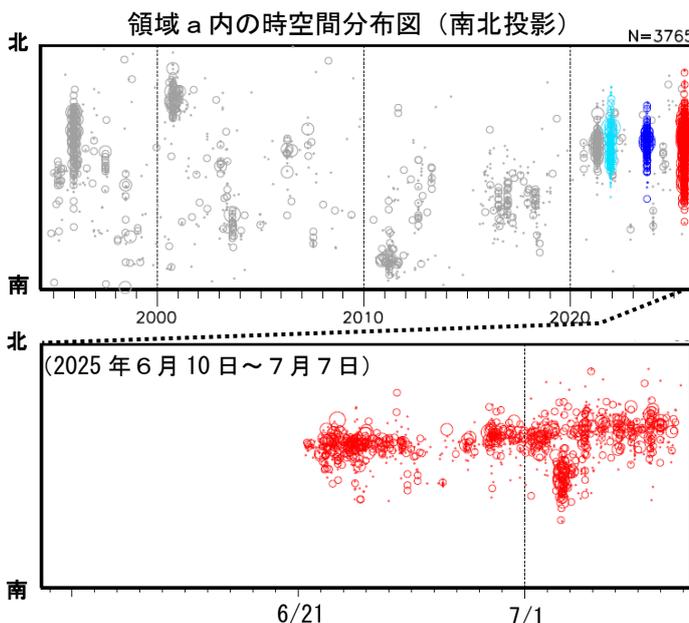
2025年6月21日05時頃からトカラ列島近海（小宝島付近）で地震活動が活発となり、7月7日までに震度1以上を観測した地震が1656回（震度6弱：1回、震度5強：3回、震度5弱：4回、震度4：38回、震度3：118回、震度2：400回、震度1：1092回）発生した。このうち、最大震度6弱を観測した地震は、7月3日16時13分に発生した $M_5.5$ の地震（図中①）である。また、最大規模の地震は、7月2日15時26分に発生した $M_5.6$ の地震（最大震度5弱、図中②）である。図中③～⑧の地震は、他に最大震度5強または5弱を観測した地震である。これらの地震は、陸のプレート内で発生した。これらの地震の発震機構（CMT解）は、次ページに記載している。

1994年10月以降の活動をみると、今回の地震活動付近（領域a）では、時々まとまった活動がある。2023年9月8日から活発になった地震活動では、9月30日までに震度1以上を観測した地震が346回（震度4：2回、震度3：25回、震度2：82回、震度1：237回）発生した。このうち最大規模の地震は、11日00時01分に発生した $M_5.3$ の地震（最大震度4）である。また、2021年12月4日から活発になった地震活動では、12月31日までに震度1以上を観測した地震が308回（震度5強：1回、震度4：2回、震度3：15回、震度2：85回、震度1：205回）発生した。このうち最大規模の地震は、9日に発生した $M_6.1$ の地震（最大震度5強）である。

今回の一連の地震活動は、1994年10月以降の活動の中では、最も地震回数が多い。

この地域の地震活動は、活発な期間と落ち着いた期間を繰り返しながら継続することが多く、地震活動の終わりの時期を特定することが難しい。

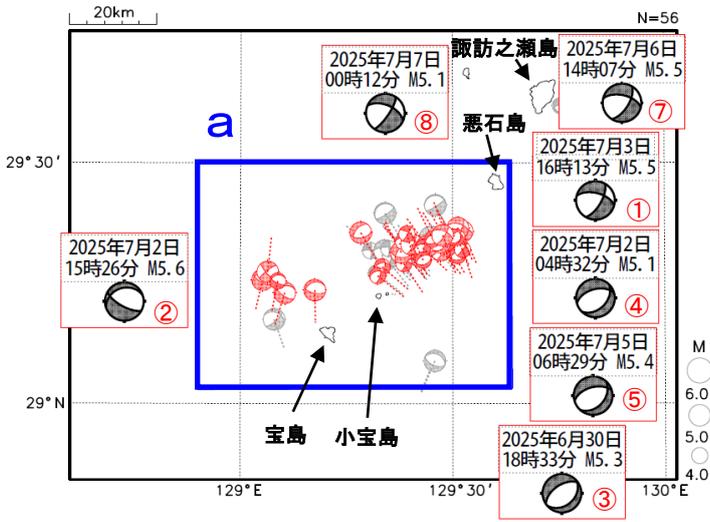
領域a内のM-T図及び回数積算図



※7月2日以降の地震は未精査を含む
※震度1以上を観測した地震の回数は速報値であり、調査により変更される場合がある。

発震機構分布図
(1994年10月1日～2025年7月7日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.0$)

図中の発震機構はCMT解
張力軸の方向を点線で表示
2025年6月以降の地震を赤色で表示

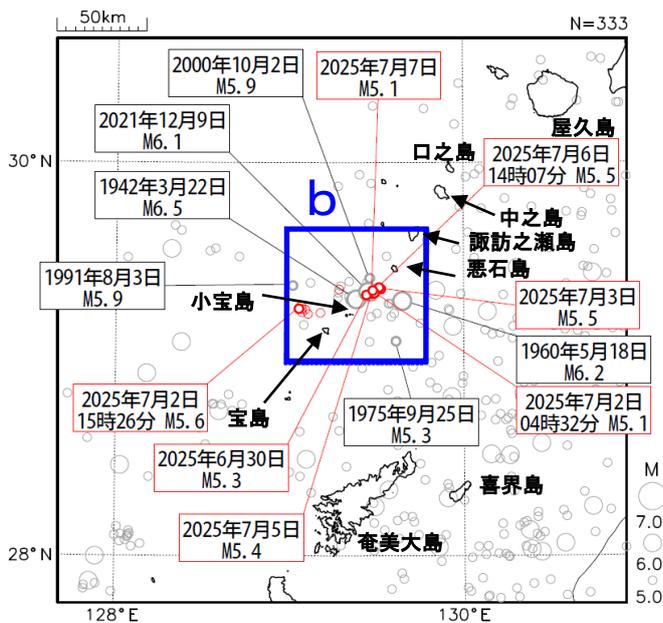


これらの地震の発震機構 (CMT解) は、①と⑦と⑧は北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、②は北北東-南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、③は北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型で、④と⑤は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。

震央分布図

(1919年1月1日～2025年7月7日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

今回のM5.0以上かつ最大震度5弱以上の地震、1975年9月25日の地震及び領域b内のM5.9以上の地震に吹き出しを付加
2025年6月以降の地震を赤色○で表示



1919年以降の活動をみると、今回の地震活動周辺 (領域b) では、M5.0以上の地震が時々発生している。このうち、1975年9月25日に発生したM5.3の地震により、鹿児島県十島村小宝島で地割れの被害が生じた (『日本被害地震総覧』による)。

領域b内のM-T図

